

いろいろな石斧

出土地：にしながはまばる西長浜原遺跡

今回は、にしながはまばる西長浜原遺跡出土の石斧を紹介します。

西長浜原遺跡は今帰仁村字与那嶺に位置し、1976年に、かつて沖縄県の保養所であった梯梧荘でいごの建設工事中に伴い発見されました。翌1977年には緊急調査が行われ、多数の縄文時代後・晩期（貝塚時代中期）の竪穴建物跡などが確認され、大量の土器・石器・貝殻・獣骨などの遺物が出土しました。

今回紹介する石斧は、様々なサイズがありますが、おそらく拳大程度の石を粗く割った後、砥石で磨いて形作ったものと思われます。また考古学で言う石斧とは、斧全体のことでなく、木の枝等で作られたと思われる柄に取り付けられた刃先のことを示します。

本遺跡から出土した石斧には、長さが最小6cm、最大16cmのものがあります。これらは、使用によって小さくなった可能性もありますが、元々用途によって大きさが作り分けされていた可能性もあります。

また、この石斧は本遺跡から156点も出土しており、他地域の遺跡と比べて非常に多く出土しております。これらの石斧の大半は、りょくしょくへんがん緑色片岩とされる石材が使われており、この石は本遺跡が位置する沖縄本島北部で採取できるものです。一方で、中南部の遺跡でも同様の石材が利用されているので、本遺跡など北部地域で作った石斧などが運ばれた可能性も想定されます。